

Book Review

歯界展望別冊 エンド処置歯の支台建築・歯冠修復 —歯内療法と補綴のインターフェース領域を考える

石井 宏・錦織 淳・牛島正雄・牛島 寛 著

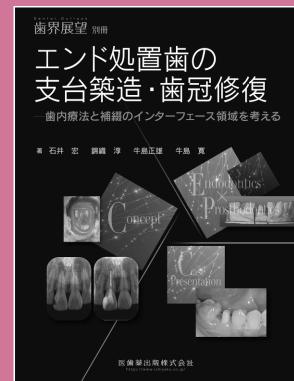


Reviewer

坂東 信 Shin Bando

(北海道・坂東歯科医院)

A4判変、136頁
カラー
定価 7,150円
(本体 6,500円+税 10%)
医歯薬出版刊
2025年6月発行



はじめに

2023年8月に開催された第43回日本歯内療法学会学術大会で筆者が大会長を務めるなか、特に注目したテーマの1つが「失活歯のマネジメント」でした。そこで、特別講師としてお招きした補綴専門医の錦織 淳先生、座長をお願いした歯内療法専門医の石井宏先生ほか、補綴・歯内・保存修復のエキスパートが、本書の執筆に携わっています。本書は、異なる視点から「インターフェース領域」を掘り下げ、総合的にまとめた一冊です。

総評

本書は、エンド処置歯の長期予後向上を目指す臨床家にとって、歯内療法と補綴治療の「接点」を体系的に学ぶための必読書です。実践的な知識と最新のエビデンスが凝縮されており、非常に価値の高い一冊です。

本書の核心的価値

1. 「インターフェース領域」の徹底的考察

歯内療法と補綴治療（支台建築・歯冠修復）が交わる領域に焦点を当てています。根管治療後の歯が支台建築、最終補綴物に至る流れ、その各段階で

の注意点や相互影響を、統合的に理解できます。単科的な知識ではなく、歯全体の予後を見据えた総合診療の重要性を強調しています。

2. エンド処置歯の特殊性への対応

無髓歯は脆弱なのか、残存歯質量の重要性、辺縁封鎖性の確保、破折リスクなど、特有の問題に対し、支台建築と歯冠修復の観点から、具体的な解決策を示しています。バイオメカニクスの視点から、力のコントロールや応力分散も解説されています。

3. 実践的な技術と材料選択

支台建築の設計や形成方法、コア材（金属、レジン、ファイバーコア等）の選択基準と特徴、セメント選択（特に、接着性セメント）について、エビデンスに基づき詳細に記述。補綴物の種類、辺縁設定、適合精度、審美的配慮もカバーし、臨床判断の指針となる内容です。

4. 歯内療法との連携と予防的視点

根管充填の状態、窓洞形態と支台建築の関係、根管穿孔や再治療時の対応、最終修復物による根管封鎖の大切さなど、歯内療法との密接な関連性が繰り返し説かれています。また、将来の再治療を考慮した「再治療可能な設計」や、支台建築・歯冠修復の失敗が

根管治療予後に及ぼすリスクについても言及しています。

構成と内容の特徴

- 豊富な図表・臨床写真で、複雑な概念や技術手順を視覚的にわかりやすく解説
- 最新の研究結果に基づくエビデンス重視の内容
- 具体的な臨床症例を提示し、問題点と解決策を考察するケースベースアプローチ
- 患者のQOLや長期安定性を重視した視点

結論

本書は、根管治療後の歯を長期的に保存・機能させるための鍵となる「歯内療法と補綴治療の接点」を、理論的かつ実践的に深く学べる稀有な書籍です。エンド処置歯の修復で悩む臨床家、補綴設計の根拠を深く理解したい歯科技工士、歯内療法と補綴の連携を学びたい歯学部生など、すべてのプロフェッショナルに強く推奨できます。臨床判断の質を高め、患者の歯を長持ちさせる知識と洞察が得られる一冊です。